

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101389		
法人名	医療法人 鴻志会		
事業所名	グループホーム サムデイ		
所在地	徳島市川内町平石若松95		
自己評価作成日	平成29年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では利用者様に明るく楽しく安らぎと幸せを実感を基本に毎年新たな催しの慰問の方々に慰問して頂き、利用者様や家族様に楽しんで頂いています。地域と共にあなたらしく私らしく生き生き長生きを地域理念とし地域との交流の場を設け文化祭出展や秋祭りには書道を出展、北村郵便局では広いスペースの展示場で1ヶ月間、一年分の作品を展示させて頂いています。毎週、主治医の往診と県の訪問看護協会との連携による24時間オンコール体制。1階、2階、隔週での訪問看護を行って頂き衛生管理、身体管理を行っています。環境面では、リビングのテーブルに季節の花を絶やさぬよう草花を育て、ミニトマトやイチゴの収穫のお手伝いをして頂いています。今年はボランティアで前事務長がゴーヤ、三尺さざげを植えて下さり、利用者様は実が成るのを窓越しに楽しまれていました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺が広々とした田園地帯で、静かな落ち着いた環境の中にある。管理者と職員は、利用者一人ひとりの思いや意向等を大切にしつつ、本人の力を最大限に発揮できるよう努めている。職員は、日頃の利用者との関わりなかで、好みなどを把握し、編み物や折り紙、書道、俳句など日々の生活が楽しいものとなるよう支援している。また、事業所は、利用者の作品を地域の郵便局や公民館で展示するなど、地域との交流に努めており、地域で作品展示を行うことが利用者のやりがいや楽しみとなっている。同一法人の運営する医療機関の医師による往診や訪問看護などの24時間体制の医療連携が整っており、利用者や家族等の安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型の理念の意義をふまえた支援に取り組んでいます。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた、理念を掲げている。日頃から、全職員は日々のケアの中で、理念を共有し振り返るなどしている。新規採用職員には、管理者が日頃の支援を通じて理念を伝えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元喫茶店やスーパーへ利用者様と出かけたり、施設の夏祭りには地元、保育園児のお遊戯、神社のお祭り作品展出展。地域住民の方からの野菜の差し入れも頂き地域との交流を大切にに取り組んでいます。	事業所では、清掃活動に参加したり、地域の老人クラブに出向いたりしている。地域の郵便局や公民館等に、利用者の短歌や俳句、手芸の作品を展示し、地域との交流に努めている。保育園の園児の来訪も受け入れており、双方向の交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域老人会の月1回のお誕生日会や老人ふれあい大会、また神社の掃除に参加し、ご家族様やご近所の方で認知症で困っていらっしゃる方への呼びかけを行いご相談させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価での結果を報告したり、今後の取り組みについて話し合っています。研修報告もしており地域の行事等の情報も聞けており運営推進会議で出された意見を日頃のケアに反映しています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域の代表者、地域の他の事業所の代表者などの出席を得ており、様々な意見や助言等を出してもらうなどして意見交換を行っている。運営推進会議の機会に、外部の講師を招いた研修も取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者様や包括支援センター担当者様とは日頃より頻回に相談させて頂けており丁寧な説明や指導をして頂いています。	毎月、職員は市担当窓口に出向くなどして、事業所の取り組みや活動状況を伝えたりしている。担当者から得た助言や意見等は支援に反映している。また、協力関係も整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全ての職員が理解しており、新しく入られた職員についても説明をし、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、新しく入居された利用者様の家族様にも身体拘束はしない旨お伝えしています。	全職員が、身体拘束を行わないケアを実践している。職員間で、話し合うなどして、身体拘束の弊害や内容について、常に確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員は理解しており虐待防止対策委員会を担当者を決めて月1回、カンファレンス時に行うようにしています。施設内、外研修に参加し全員で共通意識を深めています。言葉の虐待も含め日頃より話し合うよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しく入居された利用者様の御家族様には権利擁護の説明をしており、相談された時には個別に相談させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、ご本人様や、ご家族様と話し合い不安な事や、ご要望を尋ね契約事項に沿って十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より面会等で意見や要望を尋ね、月1回の近況報告等でも担当者は改善の報告をしたりして個々でのコミュニケーションを図っています運営推進会議や家族会でも話し合う機会を設けています。	年1回、事業所では、家族会を開催するなどして、利用者や家族の希望等聞いている。職員は、家族の来訪時には、利用者の健康状態等を伝えたり、利用者の日々の暮らしぶりを毎月“お便り”で知らせたりして意向を出してもらえるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者はカンファレンスに参加し他の職員ともコミュニケーションを図る機会を設けており管理者は日頃より運営に関する職員の意見や提案には耳を傾け、話し合いが必要な内容についてはカンファレンスで話し合う機会を設けています。	管理者は、職員とのコミュニケーションを図れるよう工夫している。代表者と管理者は、カンファレンス時などに職員の意見や要望を聞いている。出された意見等は、運営面に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により子育て、介護、病気などについて規定を設けている。特例的な措置にも対応してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月、順番で研修を受ける機会を設けており職員のスキルUP、またサービスの質の向上に努めており、施設が取り寄せている認知症介護の季刊誌を読んだり自主的に学ぶ姿勢も見られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等でも他施設との情報交換に努め、施設で活かせる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や、ご家族様の希望や困っている事に耳を傾け、生活暦の把握をし信頼関係の構築に向けコミュニケーションを図り、要望に沿った支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅や、他施設での生活について聞き取りを行い、御家族様が一番困っている事や不安な事を伺い、相談される御家族様の立場になって今後の方針について話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設入所前の生活で困っていた事、また、どのようなサービスを求めているのかを話し合い、事業所で行うサービスが実践できる様支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において常に行動を共にし、役割り分担をする事で職員が助けられる場面が生活の色々な場面で見られており、共に学び、支え合い信頼関係が築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をし施設の行事時や、お便りなどでも、ご利用者様の悩みや要望を、お伝えし、ご家族様との外出の機会も増やして頂き職員と御家族様が共に利用者様を支えて行ける様に支援致します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には面会についての希望をお聞きして友人や近隣住民の方との面会が円滑に行えるように支援しています。利用者一人ひとりの希望や要望に応じた支援を心がけています。	事業所では、入所時に、利用者や家族などから、本人のこれまでの暮らし方や馴染みの関係を聞いており、これまで培ってきたつながりや関係が継続出来るよう支援している。職員は、利用者が家族や知人、友人に電話などで話しができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係がうまく行くように利用者様同士の関係を把握し、利用者様同士の関わり合いや支え合いを支援し孤立しないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院に至った際には職員がお見舞いに行くようにしており、住み替えが必要となった場合にはフェイスシートの作成をし、また、退所後も、御家族様が季節のお野菜を差し入れて下さっておりこれまでの関係を大切に築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より利用者様とコミュニケーションを図り支援を行っており利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。思いや意思の表出が困難な利用者には、職員が仕草や表情の変化等からくみ取り、話し合うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の馴染みの暮らし方、生活環境を本人や御家族、面会者様より、お聞きし情報収集しサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり得意な事、能力に応じた役割分担、体操やバイタルチェック、会話等コミュニケーションによる体調不良の早期発見に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から希望や、ご要望をお聞きしカンファレンス時には担当者会議を行い、常に職員と話し合い、ご本人の現状に則した介護計画に努めています。	事業所では、本人や家族の意向等を聞いたうえで、介護計画を作成している。また、職員間でカンファレンス時に、評価や見直しについて話し合うなどして、アイデアなどを出し合っている。利用者の心身の状況に応じて、随時、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画を活かしたケアの実践、気づきや工夫を生活記録や日誌に記入して職員間で情報の共有をし実践や介護計画の見直しに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の入院や病院受診時等その時々状況に応じて本人様、御家族様の要望に対して柔軟な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容は出張理美容を利用させて頂き歯科受診が困難なご利用者様には訪問診療にて対応させて頂いています。ご利用者様の心身の状態に応じた対応をさせて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、御家族様と相談させて頂いた上でかかりつけ医や納得された医療機関の受診をして頂いています。適切な医療を受けられるよう支援しています。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。事業所では、かかりつけ医や協力医療機関等と、利用者の日々の生活の様子を共有するなどして連携を図っている。眼科や皮膚科等の専門科の受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	県の訪問看護協会、訪問看護師との連携により週1回の訪問看護にて健康管理をして頂いている。個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるように医療機関や訪問看護協会との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様に状況確認をさせて頂くと共に職員も面会に行き病院関係者との関係づくりや情報交換をし退院の予定や今後について話し合うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について早い段階からご本人様やご家族様と相談し協力医療機関とも相談しながら今後の治療方針や見取りについての方針を確認させて頂きチームで支援に取り組んでいます。	事業所では、重度化や終末期等にかかる指針を定めており、本人や家族と早い段階から、話し合いをするなどしている。利用者の心身の状態の変化に応じて、本人や家族、関係者間で再確認し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に勉強会を行い緊急時の対応、事故発生時に備え応急手当や初期対応手技や方法を身に付けています。また、AEDの使用方法についても専門の方を招き勉強会を開催したり個々で消防署まで出向き講習を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い避難場所を協力病院と決めておりますが、災害の多様化に対応できるように地域住民の協力を得られる体制づくりを目指しています。	年2回、事業所では避難訓練を実施している。職員間で、研修等を通じて、避難経路や避難時の所要時間の確認なども行っている。しかし、利用者や家族、地域住民等の理解や協力、参画を得るまでには至っていない。	今後は、地域住民等と協力関係を築くことができるよう、平時から、事業所の使命や役割の理解や火災等が発生した際の取り組みについて、運営推進会議等で助言を得るなどする機会を検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心やプライバシーを損ねないように、言葉掛けや対応には十分な配慮をした支援を心がける。	事業所では、職員が利用者一人ひとりの人格や意向などを尊重し、支援ができるよう研修の機会を設けている。職員間で、気づきや振り返りを行い、確認し合いつつ、プライバシー等に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でその時々言葉や表情から読み解き理解し、ご本人様の思いや希望の表出、自己決定が出来る様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて生活して頂ける様に言葉掛けや支援を行っています。また、散歩や買い物や外食など希望に沿った支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容ケア、季節に応じた衣類の選択、入浴後の肌のお手入れ等、整容やおしゃれなどを支援しています。入居者様と、御家族様の好みにより訪問理・美容を選んで頂いたり、馴染みの美容室の利用もして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者様の希望や好みのメニューを取り入れ野菜の皮むき、みかんの皮むき、豆の筋取り、卵の殻取り、ゴマすり等を日常的にして頂き、おやつ後は食器の洗い物、テーブル拭きを職員と共に準備し、後片付けもして頂いています。	職員は、利用者の希望や好みを聞くなどして、献立を立てている。利用者と職員は、買い物に出かけたり、調理や後片付けを行ったりしている。また、同じテーブルを囲むなどして会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し一日の摂取量を満たしています。体調に合わせた飲み物を用意し体操後、入浴後も水分補給して頂いており、食事は一人ひとりに合わせ食べ易いように形状を工夫し栄養補助食品等も場合により用意して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握した口腔ケアや生活習慣を取り入れ、毎食後の歯磨き支援や義歯使用の方には夕食後、洗浄剤の使用にて消毒を行い清潔保持に努める支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの能力に応じた支援を心がけ排泄のサインを見逃さず、パターンや時間を把握し、できるだけトイレで気持ちよく排泄出来るよう支援しています。また、ご家族様の意向に沿った支援も心がけています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、一人ひとりに応じた、さり気ない声かけや誘導を行っている。利用者の心身状態に応じた排出支援を行っており、可能な限りトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方が多く、理解した上で軟下剤の服用や、運動、水分摂取、食物繊維、乳製品等、摂取して頂き便秘の予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの希望や体調、状態に応じて入浴をして頂いています。入浴を拒む、ご利用者様には職員を替えたり時間を替えての対応を行い必要であればご家族様面会時の入浴をお願いしています。	週3回、事業所では、午前中に入浴できるよう支援している。職員は、利用者の希望を聞くなどして、入浴の順番に配慮したり、シャワー浴等を取り入れたりしている。職員は、見守りを重視しつつ、入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の把握をし、個々の対応を心がけ、日中の環境を整え夜間の安眠につなげる支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用途容量を理解し症状の変化や安定について職員間で話し合い、変化等があれば平日のHP朝礼参加時報告しています。投薬確認も厳重に行い変更時も間違いの無いよう職員間で情報の共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好みや生活習慣に合わせた役割分担が出来ており、得意分野での活躍を生きがいや励みにされ生活されている。今年も地域の文化祭や、お祭りに作品を展示する事が決まっており、作品作りをして下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は年間行事としてのお花見や、遠足を企画していましたが、御家族様も高齢となりつつあり、ご利用者様の希望時や、言葉掛けで個別での買い物やドライブ、地域の喫茶店でのティータイム支援、また、御家族様との夕食やお出かけなどもして頂いています。	利用者と職員は、季候の良い日には、庭で外気浴をしたり、事業所周辺を散歩したりしている。利用者一人ひとりの意向や希望に応じて、ドライブや買い物、喫茶店に出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はご利用者様が、お金を持ち管理する事大切さを理解しており、御家族様と相談し希望や能力に応じてお小遣いを所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様が携帯電話を用意されている、ご利用者様については要望に合わせ連絡の支援をさせて頂いています。また、公衆電話からの連絡の仲介役となったり、季節のお便り、手作り絵手紙の支援もさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には庭やプランターで咲いた草花を生けたり玄関や中庭、日当たりの良い花壇では季節毎の草花や野菜の栽培をし、穏やかで心地よい空間の提供を。リビングは出来る限りシンプルで馴染みのある空間作りを目指し、浴室やトイレは分かりやすい表札での案内をしています。	共用空間は、日当たりがよく、掃除が行きとどき清潔に保たれている。リビングや廊下には、利用者と職員の共同制作の作品が飾られるなどしている。中庭で、育てた花や植物を室内に飾られるなど、利用者が居心地よく過ごすことができる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブルの椅子に座られ気の合った仲の良い利用者様同士で会話をしたり、工作をしたり、一人で編み物をしたり裁縫をしたりと思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と写した写真ですとか趣味や好みの装飾品、テレビ、冷蔵庫、扇風機等、ご本人様に合わせて、御家族様が用意されています。職員は、ご利用者様と相談し、ご家族様に要望の伝達支援をさせて頂いています。	事業所では、利用者の使い慣れた家具や品物を持ち込んでもらっている。職員は、利用者や家族と話し合うなどして、本人の好みの居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の洗面所、トイレ、洗濯場、などの共用部分には目印を掛けたり、歩行ルートの安全確保をし、できる事、わかる事を活かして安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型の理念の意義をふまえた支援に取り組んでいます。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元喫茶店やスーパーへ利用者様と出かけたり、施設の夏祭りには地元、保育園児のお遊戯、神社のお祭り作品展出展。地域住民の方からの野菜の差し入れもして頂き地域との交流を大切にに取り組んでいます。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域老人会の月1回の、お誕生日会や老人ふれあい大会、また神社の掃除に参加し、ご家族様やご近所の方で認知症で困っていらっしゃる方への呼びかけを行いご相談させて頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価での結果を報告したり、今後の取り組みについて話し合っています。研修報告もしており地域の行事等の情報も聞けており運営推進会議で出された意見を日頃のケアに反映しています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者様や包括支援センター担当者様とは日頃より頻回に相談させて頂けており丁寧な説明や指導をして頂いています。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全ての職員が理解しており、新しく入られた職員についても説明をし、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、新しく入居された利用者様の家族様にも身体拘束はしない旨お伝えしています。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員は理解しており虐待防止対策委員会を担当者を決めて月1回、カンファレンス時に行うようにしています。施設内、外研修に参加し全員で共通意識を深めています。言葉の虐待も含め日頃より話し合うよう心がけています。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しく入居された利用者様の御家族様には権利擁護の説明をしており、相談された時には個別に相談させて頂いています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、ご本人様や、ご家族様と話し合い不安な事や、ご要望を尋ね契約事項に沿って十分な説明をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より面会等で意見や要望を尋ね、月1回の近況報告等でも担当者は改善の報告をしたりして個々でのコミュニケーションを図っています運営推進会議や家族会でも話し合う機会を設けています。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者はカンファレンスに参加し他の職員ともコミュニケーションを図る機会を設けており管理者は日頃より運営に関する職員の意見や提案には耳を傾け、話し合いが必要な内容についてはカンファレンスで話し合う機会を設けています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により子育て、介護、病気などについて規定を設けている。特例的な措置にも対応してくれている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月、順番で研修を受ける機会を設けており職員のスキルUP、またサービスの質の向上に努めており、施設が取り寄せている認知症介護の季刊誌を読んだり自主的に学ぶ姿勢も見られている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等でも他施設との情報交換に努め、施設で活かせる取り組みを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や、ご家族様の希望や困っている事に耳を傾け、生活暦の把握をし信頼関係の構築に向けコミュニケーションを図り、要望に沿った支援を行っています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅や、他施設での生活について聞き取りを行い、御家族様が一番困っている事や不安な事を伺い、相談される御家族様の立場になって今後の方針について話し合っています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設入所前の生活で困っていた事、また、どのようなサービスを求めているのかを話し合い、事業所で行うサービスが実践できる様支援しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において常に行動を共にし、役割り分担をする事で職員が助けられる場面が生活の色々な場面で見られており、共に学び、支え合い信頼関係が築けています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をし施設の行事時や、お便りなどでも、ご利用者様の悩みや要望を、お伝えし、ご家族様との外出の機会も増やして頂き職員と御家族様が共に利用者様を支えて行ける様に支援致します。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には面会についての希望をお聞きして友人や近隣住民の方との面会が円滑に行えるように支援しています。利用者一人ひとりの希望や要望に応じた支援を心がけています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係がうまく行くように利用者様同士の関係を把握し、利用者様同士の関わり合いや支え合いを支援し孤立しないように努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入転院に至った際には職員がお見舞いに行くようにしており、住み替えが必要となった場合にはフェイスシートの作成をし、また、退所後も、御家族様が季節のお野菜を差し入れて下さっておりこれまでの関係を大切に築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より利用者様とコミュニケーションを図り支援を行っており利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の馴染みの暮らし方、生活環境を本人や御家族、面会者様より、お聞きし情報収集しサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり得意な事、能力に応じた役割り分担、体操やバイタルチェック、会話等コミュニケーションによる体調不良の早期発見に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から希望や、ご要望をお聞きしカンファレンス時には担当者会議を行い、常に職員と話し合い、ご本人の現状に則した介護計画に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画を活かしたケアの実践、気づきや工夫を生活記録や日誌に記入して職員間で情報の共有をし実践や介護計画の見直しに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の入院や病院受診時等その時々状況に応じて本人様、御家族様の要望に対して柔軟な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		理美容は出張理美容を利用させて頂き歯科受診が困難なご利用者様には訪問診療にて対応させて頂いています。ご利用者様の心身の状態に応じた対応をさせて頂いています。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		ご本人様、御家族様と相談させて頂いた上でかかりつけ医や納得された医療機関の受診をして頂いています。適切な医療を受けられるよう支援しています。				
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		県の訪問看護協会、訪問看護師との連携により週1回の訪問看護にて健康管理をして頂いている。個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるように医療機関や訪問看護協会との連携を図っている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		ご家族様に状況確認をさせて頂くと共に職員も面会に行き病院関係者との関係づくりや情報交換をし退院の予定や今後について話し合うようにしています。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		重度化した場合や終末期について早い段階からご本人様やご家族様と相談し協力医療機関とも相談しながら今後の治療方針や見取りについての方針を確認させて頂きチームで支援に取り組んでいます。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		カンファレンス時に勉強会を行い緊急時の対応、事故発生時に備え応急手当や初期対応手技や方法を身に付けています。また、AEDの使用方法についても専門の方を招き勉強会を開催したり個々で消防署まで出向き講習を受けています。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		年2回の防災訓練を行い避難場所を協力病院と決めておりますが、災害の多様化に対応できるように地域住民の協力を得られる体制づくりを目指しています。				

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心やプライバシーを損ねないように、言葉掛けや対応には十分な配慮をした支援を心がける。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でその時々言葉や表情から読み解き理解し、ご本人様の思いや希望の表出、自己決定が出来る様に支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて生活して頂ける様に言葉掛けや支援を行っています。また、散歩や買い物や外食など希望に沿った支援を心がけています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容ケア、季節に応じた衣類の選択、入浴後の肌のお手入れ等、整容やおしゃれなどを支援しています。入居者様と、御家族様の好みにより訪問理・美容を選んで頂いたり、馴染みの美容室の利用もして頂いています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者様の希望や好みのメニューを取り入れ野菜の皮むき、みかんの皮むき、豆の筋取り、卵の殻取り、ゴマすり等を日常的にして頂き、おやつ後は食器の洗い物、テーブル拭きを職員と共に準備し、後片付けもして頂いています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し一日の摂取量を満たしています。体調に合わせた飲み物を用意し体操後、入浴後も水分補給して頂いており、食事は一人ひとりに合わせ食べ易いように形状を工夫し栄養補助食品等も場合により用意して頂いています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握した口腔ケアや生活習慣を取り入れ、毎食後の歯磨き支援や義歯使用の方には夕食後、洗浄剤の使用にて消毒を行い清潔保持に努める支援をしています。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの能力に応じた支援を心がけ排泄のサインを見逃さず、パターンや時間を把握し、できるだけトイレで気持ちよく排泄出来るよう支援しています。また、ご家族様の意向に沿った支援も心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方が多く、理解した上で軟下剤の服用や、運動、水分摂取、食物繊維、乳製品等、摂取して頂き便秘の予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの希望や体調、状態に応じて入浴をして頂いています。入浴を拒む、ご利用者様には職員を替えたり時間を替えての対応を行い必要であればご家族様面会時の入浴をお願いしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の把握をし、個々の対応を心がけ、日中の環境を整え夜間の安眠につなげる支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用途容量を理解し症状の変化や安定について職員間で話し合い、変化等があれば、平日のHP朝礼参加時報告しています。投薬確認も厳重に行い変更時も間違いの無いよう職員間で情報の共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好みや生活習慣に合わせた役割分担が出来ており、得意分野での活躍を生きがいや励みにされ生活されている。今年も地域の文化祭や、お祭りに作品を展示する事が決まっており、作品作りをして下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は年間行事としてのお花見や、遠足を企画していましたが、御家族様も高齢となりつつあり、ご利用者様の希望時や、言葉掛けで個別での買い物やドライブ、地域の喫茶店でのティータイム支援、また、御家族様との外食やお出かけなどもして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はご利用者様が、お金を持ち管理する事の大切さを理解しており、御家族様と相談し希望や能力に応じてお小遣いを所持して頂いています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様が携帯電話を用意されている、ご利用者様については要望に合わせ連絡の支援をさせて頂いています。また、公衆電話からの連絡の仲介役となったり、季節のお便り、手作り絵手紙の支援もさせて頂いています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には庭やプランターで咲いた草花を生けたり玄関や中庭、日当たりの良い花壇では季節毎の草花や野菜の栽培をし、穏やかで心地よい空間の提供を。リビングは出来る限りシンプルで馴染みのある空間作りを目指し、浴室やトイレは分かりやすい表札での案内をしています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブルの椅子に座られ気の合った仲の良い利用者様同士で会話をしたり、工作をしたり、一人で編み物をしたり裁縫をしたりと思い思いに過ごせるようにしています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と写した写真ですとか趣味や好みの装飾品、テレビ、冷蔵庫、扇風機等、ご本人様に合わせて、御家族様が用意されています。職員は、ご利用者様と相談し、ご家族様に要望の伝達支援をさせて頂いています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の洗面所、トイレ、洗濯場、などの共用部分には目印を掛けたり、歩行ルート of 安全確保をし、できる事、わかる事を活かして安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。			